

10月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和5年10月4日(水)

午前9時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 小山正文 委員 高野羊子
委員 宮下温子 委員 小松小百合

出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 伊藤尊夫
筑北中学校長 臼井伸明 教育長 加瀬浩明
次長 臼井太津男 主任 高野智弘

一 開会(臼井教育次長)

令和5年10月の麻績村教育委員会定例会を始めます。よろしくお願いたします。

二 教育長挨拶(加瀬教育長)

教育長: 保育園では運動会が行われ中学校では文化祭等大きな行事も無事に終了しました。日頃の取組の成果がしっかり出ていると感じさせていただきました。大変充実した行事となって嬉しく感じたところであります。

いよいよ10月であります。令和5年度も後半となります。この先は新たな音楽会おみっこミュージックフェスティバルが保小中一貫の具体的な姿として開催します。

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行しています。十分気をつけなければならないと思います。感染予防等を含めて体調管理には十分注意をした保育園、学校運営をしていただきたいと思います。

想定外とここ数年言われるようになっていますが、想定外が想定外ではなくなっている状況にあります。以前勤めていた学校が台風19号の被害で校舎の1階部分が50cmほど浸水しました。机の引き出しの下から2段目までは全部ダメになりました。いつ何が起こるかわからない状況であります。そのような災害等に備えた対応マニュアルがありますので、現状に併せて見直し、もう一度確認する作業をしていただきたいと思います。よろしくお願いたします。以上でございます。

三 報告

1) 教育長報告

白井次長: 報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

教育長: 9月26日に市町村教委連絡協議会がありました。そこで県教育委員会から出された伝達事項をあげさせていただきました。

県内でもインフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行傾向にあるとのこと。感染予防に配慮するようという指示でありました。

ほぼ学校訪問が終了したようであります。学校訪問へ行くと、どの学校でも課題としてあげられるのが、不登校と不適應のことが必ず出てきます。麻績村においても少なからずそういった状況がありますので、各学校丁寧にやっていただいております。教育委員会とも連携し、状況を把握しています。それぞれの子供たちの状況があるので丁寧に進めていきたいと思えます。今は学校に来て授業を受けるとか、参加することだけが全てではありません。いろいろな道がありますので、その子にあった一番良い方法を考えていきたいと思えます。外とのかかわりを遮断してしまう状況にだけはしたくないと思えます。

主幹指導主事が学校訪問をするときに、先生方のコミュニケーションがうまくとれている学校は、動きが良くて良い方向に進んでいると感じたと言うことでもあります。特に若い先生と年輩の先生と世代のギャップがあるわけですが、その年代の中間層の先生方が、うまくつなぎ役となっている学校は非常に活気があると言っておりました。本村は小さな学校でありますので、先生がよくコミュニケーションをとってやっていただいております。そのような中でも、埋もれてしまう先生がいないか、全然相談ができないとか関わりがもてないとか、そういう先生がいないかどうか、校長先生にはそれぞれの先生方との面談をして状況を見ていただいたりして、気になることがありましたらご相談いただきたいと思います。

それから、9月に入ってから県内で教職員の非違行為が3件ありました。いずれも性的な事案だということで県教委においても大きな課題であると捉えています。非違行為の根絶に向けた指導により各学校では研修等もしっかりやっていただいておりますが、なかなか研修だけで解決することは難しいことではあります。コミュニケーションの中で問題や悩みをキャッチしていただくことが大事かと思えます。

いよいよ学期末を迎えます。成績物の扱いに気をつけていかなければなりません。特に校外へ持ち出すことは禁止であります。どうしても持ち出す場合には校長先生の許可をいただくというルールになっています。再度確認をお願いします。

ストーブ等火を使うシーズンに入ってきます。これからは火災について十分注意していかなければなりません。また、夕暮れが早くなってきました。交通事故には十分注意をしてほしいと思えます。特に薄暮時は運転者も歩行者も非常に注意が必要です。子供たちの下校時には十分注意を

するようお伝えください。

行事予定等をあげてあります 10 月もそれぞれ行事がありますのでよろしくお願いたします。村民運動会を久し振りに実施します。子供たちにも参加していただくようになります。本日具体的な内容をお伝えする予定でありましたが準備が遅れているので、準備ができ次第またご連絡いたします。25 日に小学校で夢先生の授業が行われます。小学生に対して元全日本バレーボール選手の落合さんが来られます。今年は対面で実施します。

冒頭に申し上げたとおり後半になります。前期の見直しの中から反省すべき点をしっかり確認していただいて、充実した後期になるようお願いいたします。私からは以上でございます。

白井次長: ただいまの教育長報告についてご質問等ありますか。

小松委員: 行事についてお願いします。10 月の北部吹奏楽祭と月の里収穫祭が重なってしまって「残念だ」という声が保護者から聞かれました。村単独の行事ではないので日程調整が大変かも知れませんがよろしくお願いたします。

教育長: 来年度の学校の行事日程の原案は今年度の 12 月くらいで大体できてしまう状況です。特に各学校が一斉にやるような行事に関しては決まってきました。村へ周知してなかった反省がありますので、今年度はなるべく早めにわかった時点でお知らせをしておく必要があるかと思っております。次年度についてはそのようなことがないようにしていきます。

白井校長: 吹奏楽祭についてはおそらく三連休の真ん中に入らるだろうと思います。また、情報を出させていただきながら進めていきます。

白井次長: 続いて子育て支援コーディネーター報告に移ります。

2) 子育て支援コーディネーター・保育園長・学校長報告

高野 CO: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 只今の子育て支援コーディネーター報告についてご意見等ございましたらお願いします。

白井次長: それでは続いて保育園長報告に移ります。

塚原園長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 只今の保育園長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

小松委員: 保育園の運動会ですが、すごく面白い試みで楽しく見させていただきました。反応はいかがでしたか。

塚原園長： 子供たちの活動している表情が楽しそうで良かったという感想のご家庭も多かったです。年長児のご家庭は、もう少し年長児ならではのものを願う声もありました。今まで年長児では、見せる物を種目として入れてきましたが、主体性を重視し、見せる保育から遊びの継続というところによって変わってきています。保育園側からこういう取組をしていますということを発信してご理解いただいています。このような取組の中で力を付けています。

小松委員： 表情も良く子供たち一人ひとりが生き生きとしていました。今までになかった試みだったので、そのような流れに世間がついて行くようになれば良いと思いました。

白井校長： 子供たちの成長が感じられるそんな運動会だったと思いました。レッツチャレンジの時に保育士が一所懸命道具の運搬などしていました。1人泣いた子がいたときに、その子へ駆けつけるまでに5秒くらい時差がありました。重い荷物なら保護者に当番を決めて準備のところだけお願いしても良いと思いました。跳び箱や鉄棒のところは用意してあげて、子どものところは保育士さんが見てサポートするというのも良いと思いました。

塚原園長： コロナ前は保護者会の役員さんに手伝ってもらいました。コロナで種目が少なくなったりする関係で、あまり手伝ってもらわなくてもいい種目が多くなりました。確かに保育士は、あちこち用意しなければなりません。先ほどご意見いただいたので役員さんへお願いすることはできると思います。

伊藤校長： 保小の連携というところを考えて見ていました。見ていて楽しかったし、カルチャーショックでもありました。保育園でこのような取組をしているときに、小学校ではどうするか考えてしまいました。旧態依然のところで行っている中、どうしていくのが良いのか考え始めたところです。少なくとも今度の職員会では話題にして先生方には伝えていかなければと思っています。保育園でこういうことをやってきたのに小学校に上がって変わってしまったらどうなのかなと思っています。

塚原園長： 小学校での競技には繋げられるとは思いますが。

伊藤校長： 少なくとも子供たちにどのような力を付けるのが目的なのかというところを明確にしてやっていく必要はあるかと思っています。

塚原園長： 今保育園では運動会はやらなくても良いくらいです。教えてきちんとやらなければならないことが、子どもにとって良い育ちに繋がっているのかということがすごく言われています。

今回は子どもだけでやりましたが、小学校1年生を招待したり、保護者祖父母を巻き込んだり一緒に楽しい運動会も考えられます。見せる場ではなく、楽しむ場によって変わってきています。競技としてやることも間違っていないと思います。やはりできる経験を積み重ねた上で、年中年長さん1人

ずつ力を付けたので、あの様にできるようになったことを発表する場面を作らせてもらいました。いろいろなご意見の中から来年の在り方を考えていきます。

今までの運動会は終わってしまうと子供たちはパタッとやらなくなってしまいます。やはりやらされていた感が強いのです。今はそうではありません。毎日引き続きやっています。玉入れや、リレーをずっとやっています。子どもの姿が明らかに違う様子が見られます。引き続き楽しんでいることは子どもにとって負担ではなかったのかなと感じています。保育士としても嬉しい姿が見られてよかったです。見ている側と我々側との気持ちのすり合わせをしていかなければと思いました。これからも行事があるので、行事への取組について発信していきます。

白井校長： 保小中のつながりだと思えますが、本気になれる場、勝って嬉しい場、負けて悔しいと思う場など発達段階に応じた場の設定を考えていかなければいけないと思いました。

白井次長： 只今の保育園長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは続いて小学校長報告に移ります。

白井次長： それでは続いて小学校長報告に移ります。

伊藤校長： (以下、資料に沿って説明)。

白井次長： 只今の小学校長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

宮下委員： 今年度からおみっこミュージックフェスティバルが行われますが、コミュニティスクールの関係者へは案内は行っていますか。

伊藤校長： 教頭とは相談しています。ただ会場の大きさを考えるとご招待するのは難しいかと思えます。来賓向けに配信をしているので可能ならば、交流センターなどに集まって見ていただくことを案内したらどうかと考えています。会場の確保及び機材のセッティングについては学校職員だけでは手が回りません。おみスクールパートナーズの事務局に動いてもらわないといけないかと思えます。

今回の合同音楽会は何処が主体になるのかと考えたとき難しいところです。おそらく小中学校長がリーダーになるのかと思うと小中学校からおみスクールパートナーズの皆さんへ案内を出すのが筋なのかと思えます。

白井校長： 家庭学習についてありましたが、手引きを作ってやるより、例えば英語の教科書のことと言いますと、QRコードを読み込むと音声が出てきたり、いろいろできたりすることが沢山あります。自分で主体的にできる子はできますが、できない子でも音声を聞いて繰り返し言ってみるとか、自分でもできるよって思えるようにしていくことが大事ではないかと思えます。家で復習をして、タイプして先生に送りましょうとか、そんなこと出来るような気がします。よく手引きで中学生は学年プラス1時間と言われますが、

そうではなく、家で勉強するいろいろなパターンがあることを紹介していくことが良いかと思います。もちろん予習復習は良いと思います。しかし、「俺何もできねえ」っていう子供たちが多分いっぱいいると思うので、できることを何かやっていけば良いと思います。「できることをしっかりやりましょう」というところから始めて、だんだんと興味関心が広がれば良いと思います。

小山職務代理: タブレットを自分のものになっているので、タブレットを使うことが子供たちも良いのではないですか。

伊藤校長: 子供たちへは毎日持ち帰らせています。担任もクラウド上で今日の宿題を出しています。ネットさえつながっていれば、子供たちで分からないところを教えあったりしています。

白井校長: 何か背骨がしっかりすわっていて、音読練習ができるでしょうか、今日はこれをやってみようとかっていう小学校での背骨と、中学校での背骨がある程度やることははっきりしてそこから発生するような枝葉みたいなものについては、個人がいろいろ考えて工夫していけば良いと思います。

小学校は担任毎にやり方が違うと思います。中学校も教科毎に違ってきたりするので、何か揃えるところは揃えるのと同時に自由なところは自由にとりょうに考えていけばよいかと思います。それで学びに向かう姿勢の評価ができると思います。できることがいっぱいあるのに「俺はできねえ」って言っている姿が嫌です。やればやるチャンスとかいろいろあるのに、いろいろやろうと思えばできるけど、やる気が起きない状況が自分はちょっとストレスです。「やることはいっぱいあるでしょう」って言うことをメッセージとして伝えていきたいです。

白井次長: 続きまして中学校長報告をお願いします。

白井校長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 只今の中学校長報告についてご意見等ございましたらをお願いします。

教育長: 中間教室設置については、基本的には居場所として部屋を作ります。できればそこに対応できる教員を1人配置してもらえないか県にお願いをしています。お願いをしています、なかなか厳しいかとは思いますが、要望はしています。段階を追って進めていきます。

白井校長: 部屋だけは作っていきたく思いますので、予算的によろしくをお願いします。

小松委員: 筑北祭ですが、ふるさとディスカッションそれから生坂中の交流を見させていただきました。本当に面白い企画だと思いました。ディスカッションの時には、先生や生徒それから地域の人や大学生から小学生から皆で輪になって話をしていて本当良いと思って見ていました。それから生坂中との交流も良かったです。生坂中では北海道との交流もしているようで、麻

績村においても近隣の交流も良いのですが、外との交流もできようになると良いと思いました。

教 育 長: 去年は議会で提言をやりました。村長も聞いたりしました。もう 1 回しっかりと行うのも良いかと思えます。

白井校長: 場を設定していただいて中学生が議員になったような感じで提言をする。どこまでできるか分かりませんが。

白井次長: 小学校の子供議会から中学校になってからの議会でその成長ぶりが多分感じられるところだと思います。去年 1 回実施しているので、それを継続していけば一番いいかと思えます。

白井次長: 以上で報告を終わりにします。協議事項に移ります。

四 協議事項

1) 教育委員の任命について

・9月定例議会において同意案件議決

11/4 宮下温子委員 任期満了

11/5～ 板口曜子委員 任期開始

教 育 長: 9月の定例議会において議決をされた案件でございます。宮下温子委員でございますけれども、11月4日をもって4年間の任期が満了いたします。大変ありがとうございました。そこで11月5日から坂口曜子氏を新たな委員に任命し、そこから4年間お願いをするという案件が議会で同意を得ました。一応教育委員会でも同意をいただいて、進めていきたいということでございます。それでは11月1日の定例が宮下委員最後になりますのでよろしく願いいたします。11月5日から坂口委員となりますが、委員会の出席は12月の定例会からとなりますのでご承知をいただきたいと思います。

この件に関して何かございますか。それでは教育委員会においてもご同意をいただいたということで進めさせていただきます。

2) 部活動地域移行の状況について

- ・国、県の状況
- ・中学校の部活動の状況
- ・ジュニア育成組織の状況→それらを踏まえた上での方向性

教 育 長: 文科省では当初令和7年度までに地域移行ということをおっしゃったけれども、全国各地からなかなか難しいという声が出て、令和8年までに何とか方向付けをしようということでもあります。学校の部活動を地域

で実施をするということにはなっています。ここまでの状況等について次長から説明をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

白井次長: 国の状況につきましては、先ほど教育長から話があった通りであります。現在麻績村では、部活動指導にかかわって二つの補助金をもらっています。一つは部活動指導員任用事業です。これは村費職員の先生方が定時の勤務時間の後、部活指導をしていただいている部分に充てています。それから、昨年度からいただいていますスポーツ庁の事業で、地域移行に係る実証事業の補助金もいただいております。基本的には地域移行に係るところとなりますので男子バスケがそれにあたります。男子バスケは社会体育の位置づけができていますので、講師の謝礼になります。それから剣道につきましても土曜日は地域の方に見ていただいておりますので、謝礼ということで充てています。

地域指導者への報酬については、1時間当たり1600円が限度額になっています。麻績村では1時間当たり1600円という単価でやっています。実際に地域移行されて地域の指導者に払うときに、国なり県なり財源のバックアップをしてくれるかはまだはっきり決まっていないということもあり心配なところでもあります。ただ、ここからさらにどう進んでいくかについては非常に難しいところもあります。

男子バスケについては地域移行に対して一番理想的な形で進んでいました。5年前にジュニアのミニバスの子供たちが、中学校にはバスケットボール部がないので、ぜひ中学校にバスケット部をお願いしますという要望をいただきました。しかし、学校ではそんなに部を増やすこともなかなか難しいということもあり、どうしていったらいいかということでありました。そこで県の制度としてできた委任指導というのがあります。これはバスケットの部があるところで指導を委任するというような状況で、当初その委任指導からスタートして聖南中学校へ指導を委任しました。その後、合同部活というような形で聖南中との合同部活動をお願いしました。次第に人数がある程度確保できたというところもあって、地域の社会体育という扱いになりました。言ってみれば地域移行に一番ふさわしい状況で進んでいたところがあります。

しかし、3年生が引退をして、残る2年生が3人になり、合同部活の道を探ってはみたのですが合同部活での存続には至りませんでした。この9月をもって一応活動を休止しているような状況であります。

剣道につきましては週末に地域の指導に入ってもらっているので、この地域移行についてできているような形にはなっているかと思います。その他の部分について、野球部は現在1人もいないので、休部状態です。女子バレーは1年生が2名です。剣道は2年生が3名です。芸術部は1年生2年生ともに2人ずつで4名です。吹奏楽が2名ということで非常に難しく

なっているという状況もあります。ここでもう活動ということではなくて、地域移行に進んでいく一つの契機になるかとは思いますが。

しかし、地域移行を進めていくにあたっての体制作りはなかなかこちらとしても難しい状況です。小学校のジュニアの育成組織の状況については、ジュニアの育成があってその次に繋がっていくということも非常に大きいです。今それができているのはバスケットとスキーです。子供たちが今頑張っているのは空手になります。良い成績を出していただいています。ところが、あくまでも今は個人参加になっております。なので、組織作りをどのようにしていったら良いのかというところもあります。

本当は地域のスポーツクラブがあれば一番良いのですが、麻績村としてはどのような形になるかといったら体協組織が一番いいのかも知れませんが、しかし、体協の競技部についても昔ほどの元気さがなかったり、どうしてもやるのは事務局が担ってしまったりと言うことになります。

そこで、どのようにしていったら一番有効な組織作りができて、ジュニアから高校に繋げていくまでのスポーツ体系が取れるのかなというところでもあります。日々悩みながらなかなか次のステップに進めないことについては、事務局の至らないところではあります。そのような状況もあって地域移行を考えたときには、もう中学校の部活だけではなくて、やはりジュニアも含めた中での一元的なものが必要になってくるのではないかと思います。

もちろんその中で、高みを目指して外へ出て活動している子も実際います。どう補完できるのかあるいは家庭的な支援も含めてどう出来るのかを考えていかなければなりません。麻績村モデルではないのですが、もちろんそれは筑北村との広域的な連携も必要になってくると思います。

しかし、筑北村としてはまだ部活動自体の人数がある程度いるので、喫緊の課題とは考えていないのかなと今までいろいろお願いする中ではそのような雰囲気は自分では感じ取っています。とは言え、やはり補助金をもらいながら進めていく部分ではありますので、下地づくりを進めていかなければと思っています。以上よろしく申し上げます。

教 育 長: 長野県としては委員会を作って準備を進めています。しかし、いくつか問題があります。一つは、地域に人材がいないこと。それから、国および県において実際に予算措置が何もないこと。簡単に言えば、参加する子供たちから部費を集めてやってくれというような段階です。お金のことがやはり一つ大きな問題になります。

それから、通常の活動は土日あるいは祝日等の活動しか考えがなくて、平日の活動自体はあまり考えていません。実際に平日活動するとすれば、部活動の時間帯に地域の方が入る時間が合わない、皆さんお仕事されていて、それが終わってからとなるとやはり夜になってしまいます。いくつか

の問題があります。このようなところを3年かけて準備をしていくということになります。

なかなか難しい問題もたくさんあるということで、麻績村としては現状を踏まえながら、中学校の先生方をお願いをしている部分が非常に大きいので、先生方に対して何かお礼というか交通費というかお金を出すことができないかどうかということを今県に相談をしたり、お願いをしたりしているところです。なので、現状としては今の形を続けながら何とか先生方に報酬を出せる方法を考えていかねばならないという状況であります。今のところそのような動きを始めたところでもあります。なかなか現状を考えると、県内全域において非常に難しいところでもあります。

この点に関して、皆さん方からあればお願いします。

白井校長: 将来的なことから考えても、部活動に入ってチームを編成して筑北中として出ていくことは、今後よほど子供が増えない限り厳しいと思います。だんだん休部というか廃部というかそのような方向になってくるかと思っています。だから無理に部活にこだわっていくより、ある程度リセットをして、麻績村としてどのようにスポーツに触れていく機会を設定していくかっていうところに向かっていった方が将来的にはいいのではないかと思います。やはり、体を動かすことが楽しいよってというようなところも踏まえて、様々な活動を行うことで、だんだんと興味関心に向かっていく子供たちが増えることをイメージしています。

高野委員: 今後を考えると、部活や団体競技は難しくなってきます。そこで空手などの個人で頑張っている人たちなどへの補助に向けた組織作りや応援の体制づくりを進めていけるように考えていってほしいと思います。個々の力を発揮出来る環境作りもお願いします。

教育長: 現状で組織があるのは体協それからスポーツ指導員等があります。まずは、部活動の現状を知っていただいて、連携してまとまっていくような形で進めていきます。村として何ができるのか方向性を出していかなければと思います。

3) 学校のICTに係る支援について

- ・教育委員会の体制
- ・学校への支援→外部への委託検討

白井次長: 学校ICTは学校を中心として進めてもらっています。おそらく他の学校にも負けないうらい進んでいるのではないかと思います。

しかし、それをサポートする教育委員会の体制がなかなかうまく取れていない状況にあります。今までICTに係わる部分に対しての支援や保守の

部分については、ほとんどお金をかけていない現状でありました。地域の中から ICT 支援員をお願いしたこともありましたが、やはり学校自体に設置しているわけではないので、外部委託というような形で考えていきたいと思っております。

そこで、8 月末に塩尻振興公社と小中も含めて打合せを行いました。今後理事者の決裁が出れば、今年度から月にある程度定期的に ICT 支援員に学校へ入っていただくようになります。来年度については、GIGA スクール運営支援センター整備事業という国の補助金がありまので、負担金という形で活用出来ればと考えています。以上です。

教 育 長: 実際に物だけは一気に揃ってしまって、それを使いこなせるようにする体制が非常に遅れている状況であります。外部委託をしながら追いついていくことができるように準備を始めていることをご承知願います。学校からも要望を上げていただきながら、進めていきたいと思っております。よろしく願いをいたします。

五 その他

1) 各委員から

教 育 長: 各委員さんからございますか。

高野委員: 自分の職場で 1 年生に交流をしていただきました。利用者の皆さん大変喜んでいました。今回合同の音楽会も大変喜ばれると想像しています。とてもいい機会でありありがとうございます。

宮下委員: 9、10 月は子供たちが活躍する機会がありました。子供たちも生き生きとしていました。9 月は通学合宿が子供たちともとても楽しかったという感想を聞きました。下学年の子供たちへも周知して、わくわくするような期待を持てるようにしてください。

小松委員: 今年の通学合宿は 2 泊だったので、状況が許せば是非長く願います。また、活動の成果について情報を共有していただければと思います。

小山職務代理: 不登校に関するニュースをやっていました。すごい数が全国的に増えているようです。不登校が特殊じゃなくて当たり前だという形になってきています。そういう中で学校へ通って通常の教室で授業を受けるだけでなく、中間教室で学ぶ選択肢もあるというそんな形に全国的に舵を切られてきています。

そういう中で、麻績村としてもそのような対応をしてもらえればなどと思います。先生方も非常に忙しく、各方面からの要求だとか、あるいは資料の提出とかとても多忙になっていることから、心を痛めるとか、あるいは病気になる先生もいらっしゃるのではないかと思います。心のケア等早め早めの対応をお願いしたいと思っております。

教 育 長: はいありがとうございました。

2) 事務局から

- ・児童クラブの状況確認について

10月11日(水)15時30分～

- ・松本山雅ホームタウン事業

児童生徒試合観戦事業 9月24日実施

児童9名・保護者等11名 合計20名参加

次回11月5日(日)実施予定

- ・第66回長野県市町村教育委員会 研修総会について

10月27日(金)9時50分開会 筑北村:本城公民館

9時30分出発予定

3) 次回予定

次回の定例教育委員会の日程 11月1日(水) 午前9:30～

六 閉会

教 育 長: 以上をもちまして10月の定例教育委員会を閉じます。